

教育方針	将来の国家及び地域社会の有為な形成者として、伝統の継承と郷土愛をはぐくみ、国際的視野を持った人間を育成する。	重点目標	<b>人としての自立と社会貢献を目指し、夢に向かう生徒の育成</b> <b>－ チャレンジ！ 一歩前に －</b>  <input type="radio"/> けじめと活気のある学校 <input type="radio"/> 確かな力をつける学校 <input type="radio"/> 地域に開かれた学校 <input type="radio"/> 安全・安心な学校
	<b>【指導方針】</b> 一人一人の生徒を見つめ、ゆさぶり、励ましを与え、たくましく生きる力を育む教育の推進 1 豊かな心情をもった節度のある人づくりの推進 2 自ら学ぶ態度を身に付けさせる教育の推進 3 健康で明朗な心身の育成を図る教育の推進 4 チャレンジ精神を育む教育の推進		

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
1 学校経営	学校教育活動の公開と情報発信	<ul style="list-style-type: none"> <li>毎日ホームページを更新し、内容の充実を図る。</li> <li>各課の刊行物を定期的に発行し、ホームページへの掲載をタイムリーに行う。</li> <li>新聞社・ケーブルテレビ等関係報道機関に情報発信する。</li> </ul>	C	<ul style="list-style-type: none"> <li>CMS方式に変えて更新は楽になったが、ホームページを見たことのない人も多い。</li> <li>各課の刊行物は定期的にタイムリーな話題で発行できた。</li> <li>報道関係者への情報発信はできていた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ホームページの更新については、多くの教員が分担して更新し、内容の充実に努めたい。</li> <li>新聞社・大洲市広報・ケーブルテレビ等を利用して、引き続き情報を発信したい。</li> </ul>
	教職員の意識統一	<ul style="list-style-type: none"> <li>本年度の重点努力目標を理解し実践する教職員100%。</li> </ul>	C	<ul style="list-style-type: none"> <li>努力目標を理解して実践している事への自己評価は4.0であったが、教職員間の協力体制に関しては、3.4とやや低い自己評価であった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教職員間の縦横の連絡を密にするため、「報告・連絡・相談」の徹底を図り、より良い協力体制を構築したい。</li> </ul>
	P T A 活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>魅力ある行事の工夫と保護者デー・学校行事などへの積極的参加の呼びかけを行う。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>保護者デーの出席率は昨年度の27%から34%へ増加した。また、農業祭のP T A パザー手伝い、スポーツレクレーション、研修旅行とも参加者が増加した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>P T A 総会の出席率は依然低いままである。時間割の見直し、保護者懇談会の実施方法等を検討し参加率向上を目指したい。様々な形で保護者が学校に足を運んでくれるよう工夫したい。</li> </ul>
2 学習指導	教科指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒による授業評価を参考にし、教材研究に尽力して分かる授業・達成感のある実習等の展開に努めるとともに、生徒が意欲的・積極的に授業に取り組む態度を養う。</li> <li>生徒の学力に応じて、個別指導等にも力を入れ、教科担任及び関係教員で組織的に対応する。</li> <li>授業公開日を年間6日以上設定するとともに、教員相互の授業参観も取り入れながら授業研究を深める。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>「授業の説明や指示が分かりやすい」が87%、「私は、この科目に対する興味・関心・意欲がある」と思う生徒が84%と高い数値を示しており、取組の成果が表れている。一方で、「授業や実技・実習の進め方に無理がなく理解しやすい」と思う生徒が87%と昨年度より4%下がっており、計画的な指導を再度見直す必要もあると感じる。</li> <li>授業公開日は目標の年間6日を達成したが、参観者が毎回数人という状況である。</li> <li>教員相互の授業参観による授業研究については、研究授業等で研鑽を深めることができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>考査前に慌てることがないように、期末考査後の授業も大切にして、計画性を持って教科指導に取り組む必要がある。個別指導も含め、生徒の実情に応じた指導が必要である。</li> <li>授業参観デーの案内が家庭に届いていることの確認、及び保護者・学校関係者が来校したくなるような興味を引く取組を検討する必要がある。</li> <li>また、研究授業への参加率を上げ、教員全体で更に指導力を高めていくような取組にも力を入れていきたい。</li> </ul>
	家庭学習習慣の定着及び基礎学力の定着	<ul style="list-style-type: none"> <li>家庭学習時間調査を基にした定期考査期間の学習時間の確保はもちろん、普段から随時課題等を与えて事後指導も徹底することで、家庭学習の必要性を認識させるとともに定着を図る。</li> <li>漢字テスト平均点85点以上や数学計算テスト平均点75点以上などの具体的な目標を持たせ、日常的な学習習慣の確立とともに、事後指導にも力を入れて基礎学力の定着を図る。</li> <li>提出物や課題を、期限を必ず守らせる指導に努める。</li> <li>安易に欠席・遅刻・欠課・早退をせず、1か年皆勤者率60%以上を目指す。また、皆勤を達成できなくなった場合も、欠席等が増えないように努めさせる。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>2学期末考査時の家庭学習時間の平均が169分で、1学期末考査時の170分とほとんど同じだった。個人的には、平均240分を超える生徒が14%いるのに対し、120分に満たない生徒も25%おり、生徒の学習意欲の差が大きい。</li> <li>漢字テストの平均点は88.4点（昨年80.4）、数学計算テストの平均点は77.4点（昨年75.3）と、共に昨年度を上回っており、各クラスでの取組が成果を上げてきている。</li> <li>2学期末現在の皆勤率は53.0%で目標を下回っているが、全員皆勤の日は10日で昨年度を上回っている。曜日別では、休日明けの欠席が最も多く、登校することへの意識を高める指導が必要である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>3年生に学習時間が減少するクラスが見られ、進路決定後の学習意識を維持させる取組が必要である。</li> <li>H R 担任を中心としたクラス内での取組を今後も継続してほしい。更に、クラス間での競争意識なども高められるような取り組みを工夫していきたい。</li> <li>休まないことの重要性を自覚させ、自主的に基本的生活習慣の確立と健康管理に努めるよう指導する。</li> </ul>

3 生徒指導	基本的生活習慣の確立	<ul style="list-style-type: none"> <li>・さわやかで気持ちの良い挨拶や返事、正しい言葉遣いができる生徒を育成する。</li> <li>・家庭との連携を深め基本的生活習慣を確立し、問題行動の未然防止と早期発見に努める。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・さわやかで元気ある挨拶は、昨年に続き高く評価された。</li> <li>・先生に対しての言葉遣いも昨年より意識できている生徒が増加しており、職員室の出入りの仕方も改善されてきた。</li> <li>・5分前登校できない生徒が減少した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員は生徒に対して毅然とした態度で接することを心掛け、規則・マナーを守らせる。</li> <li>・時間、提出期限、身だしなみを守らせ、けじめをつける指導を行う。</li> <li>・無断アルバイト、深夜徘徊や外泊をさせないよう家庭、地域と連携して、問題行動を未然に防げるよう努める。</li> </ul>
	個別指導の充実と教育相談の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個人面談を一人年間4回以上実施し、きめ細かい心の通う生徒指導に努める。</li> <li>・家庭との連携を深め、不登校生徒の未然防止と早期発見に努める。</li> </ul>	C	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学期始めに面接期間を設定し、生徒全員に実施できた。</li> <li>・教育相談課と協力していじめや不登校生徒に対応した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・面接週間以外でも生徒の様子を観察し、必要に応じて電話連絡や家庭訪問を行い、いじめ・暴力・不登校の早期発見に努める。</li> </ul>
	自ら行動できる生徒の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・規則が遵守できる判断力のある人間の育成に努める。</li> <li>・誰が見ても端正で清潔感のある身だしなみが自主的にできる学校づくりを目指す。</li> <li>・交通ルールやマナーを守る態度を醸成し、登下校中の交通事故ゼロを目指す。</li> <li>・教室の整理整頓や、施錠を確実にできる態度を養う。</li> <li>・携帯電話のルール・マナー・モラルを持って使用できる生徒を育成する。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年よりさらに規範意識が高まり、校則や身だしなみの違反者が減少した。</li> <li>・地域からは身だしなみが良くなっているという評価を昨年同様にいただいた。</li> <li>・自転車通学生の違反・事故は0件、原付通学生の事故は1件で、昨年の4件から減少した。</li> <li>・登下校のヘルメット着用率は100%であった。</li> <li>・教室の整理整頓はクラスによって差があるが、移動教室時の施錠する意識は高まっている。</li> <li>・校内での携帯電話不正使用は昨年より減少した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・HR活動で道徳教育を行い、規範意識を身に付けさせる。自主的に身だしなみを整えられるよう意識させ、校外で身だしなみの乱れを減少させる。</li> <li>・引き続き原付通学生には安全教室、メーター確認を毎月実施するなど違反、事故防止に努める。</li> <li>・教室、部室の鍵の管理は各クラス、部で責任もって管理できるよう徹底する。</li> <li>・HR活動で携帯電話のルール・マナー・モラルについて考えさせる機会を増やす。</li> </ul>
4 特別活動	部活動の活性化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・部活動加入率90%以上を目指し活性化を図り、学校を元気にする。</li> <li>・県高校総合体育大会出場者50人以上を目指す。</li> <li>・県高校総合文化祭出場者50人以上を目指す。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・加入率は87%で目標まで後少しだった。(3年生93% 2年生76% 1年生100%)</li> <li>・県総体出場者は45名、高文祭参加者は37名と目標を達成できなかったが、クラス減の中、両大会への参加者は共に増加。特に県総体出場者が昨年より19名増加し県大会でも結果を残した。</li> <li>・テニス部男女が四国総体に出場し、活躍した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運動部加入率は3年生60%、2年生48%、1年生60%であり3年生に活気が見られる。今後も運動部の活性化を進める。</li> </ul>
	豊かな人間性の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ボランティア活動などへの自主的な参加を促し、一人年間2回以上の参加を目指し、公共心や思いやりの心を養う。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年同様、役員以外の部活動や一般生徒がボランティア活動へ積極的に参加した。多くの地域の行事、イベントに参加し地域活性化に貢献した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・部活動やクラス単位で実施したり、誰でもボランティアに参加しやすいように、情報の提供を行う。</li> </ul>
5 進路指導	キャリア教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職場見学、社会人を活用した講演会・講習会をとおして、具体的で実践的な進路学習を図る。</li> <li>・一年次より望ましい職業観や勤労観を育成し、進路実現へつなげる。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各学科、各学年でもキャリア教育に力を入れて取り組んでおり、生徒の進路意識の高揚につながっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各学科、各学年で充実したキャリア教育に取り組んでいるので、今後も継続していく。</li> </ul>
	就職指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・企業訪問及び職安等の関係機関と連携をとることにより求人確保に努める。</li> <li>・応募前職場見学の参加などをとおして、生徒に自主的・意欲的な就職活動を指導する。</li> <li>・ガイダンスを実施し意識の高揚を図り、資格取得の推進など生徒の資質向上を目指す。</li> <li>・以上の取組をとおして、就職希望者の決定率100%を目指す。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1/14現在、就職希望者の決定率は94.0%となった。学校斡旋希望者については11月末までには全て内定することができた。応募前見学に取り組むことで、生徒の意識の向上につながり、ハローワークと早期に連携を取ることで求人確保に努めてきた。昨年度以上の求人数を確保することはできたが、管内の事務職や販売を希望する生徒に応じた求人確保には苦戦した。</li> <li>・1・2年生合同の校内企業説明会等、ハローワークと連携した講座を実施した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・応募前職場見学は今後も継続していきたいが、準備・手続き等で教員に大きな負担が掛かってしまうのでハローワークとの連携を強化する必要がある。</li> <li>・限られた時間内での面接指導は限界があるので、多くの先生方にかかわっていただく体制を作る。</li> <li>・1・2年生に対して、体系的な進路指導を行う。</li> <li>・公務員希望者の対策を進める。</li> </ul>
	進学指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・早期に進路目標を設定させ、一人一人に応じた細やかな個別指導を徹底することで生徒の資質の向上を図り、進学希望者の合格率100%を目指す。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1/14現在で進学希望者すべて決定した。</li> <li>・愛媛大学社会共創学部地域マネジメント学科農山漁村マネジメントコースに1名が合格した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進学補習の方法の見直しができしたが、まだまだ実施されている先生方の負担増につながっているので改善していきたい。</li> <li>・大学から専門学校まで、その指導体制の見直しをする。</li> </ul>

6 農業教育	資格指導を充実させ確かな力量を確保	・1人1資格以上の取得を目指す。	C	・資格取得の手引きを活用して、資格に向けての意欲を喚起したが、目標値の56%にとどまった。	・HR担任や資格担当者・教科指導者からの働きかけを強め、進路意識の高揚を図るとともに資格取得に向けての意欲を喚起する。
	農業クラブ活動の充実	・各種発表並びに各種競技県大会の全部門入賞、及び全国大会出場を目指す。	C	・全員参加による分会活動が実施できた。 ・地域に根ざしたテーマを設定した調査研究活動ができた。 ・各種発表や各種競技大会での入賞は、28エントリー中12入賞であった。 ・全国大会に出場した意見発表が1部門あった。	・農業クラブ活動活性化に向けて、教職員・生徒に働きかけたい。
	地域に開かれた学校	・農業祭や、地域行事への参加による、ふれあい交流事業動員数1万人以上を目指し、地域に貢献する生徒を育成する。 ・大農開放講座やバイテク講習など、学習の成果を地域に披露するイベントを年間5回以上開催し、地域の住民に開かれた学校づくりに努める。 ・大農うきうきわくわくスクール運営参加生徒100人以上など学校間連携に努める。	A	・農業祭等多くの行事を通して、地域とのふれあいや交流が実施され、1万人を超える地域住民との関わりが持てた。 ・大農開放講座は当初の予定通り実施できた。生徒が講師となり地域の方々と接することで知識・理解を深めるとともにコミュニケーション能力の育成につながった。 ・大農うきうきわくわくスクールは予定通り実施でき、延べ155人の児童が参加し、生徒の情操教育にも繋がった。	・農業高校の持ち味を生かした地域交流を深めることで、地域に根ざし地域に貢献する学校運営の一役を担う。 ・大農アクションプランを実行することで、地域に必要とされる学校・地域に求められる生徒の育成に努める。
7 環境教育	豊かな自然を大切にす る心の育成	・環境美化に努め、緑豊かで潤いのある学習環境づくりに努める。	A	・定期的に季節の草花を飾るなど、環境美化に努めることができた。 ・草花部門による菊花展への展示やバイテク部門による校内鉢花の展示により、教育現場に潤いと安らぎを得た。	・より一層生徒や教職員・外来者にとって快適な教育環境となるよう努力したい。
	身近な環境問題の解決 に主体的に取り組む生徒 の育成	・清掃活動5分前移動100%及び清掃活動の充実を図り、校内ゴミ0（ゼロ）を目指す。 ・美化活動に努め、授業に集中できる環境を整える。 ・省エネを心掛け、地球温暖化防止に取り組む知識や態度を養う。	C	・清掃5分前移動は、今年度も70%前後で伸び悩んでいる。校内放送や巡視により移動を促したが、意識の大きな変化は見られなかった。しかし、ゴミの量は確実に減っており、地域の方からも清掃が行き届き、環境整備が行き届いていると評価していただいた。 ・美化委員会やボランティアの生徒が、年間を通して定期的に朝清掃を行った。出席率は100%で、短時間ながらも熱心に取り組み、校内美化に貢献することができた。 ・前年度に比べ、毎月の電気・水道使用量が減少した。特に電気代については、消灯等の改善策や、その結果を目に見える形で具体的に生徒・教職員に提示したので、エコ意識の向上につながったのではないかなと思う。	・清掃の作業内容や方法を重視し、限られた時間に効率良く活動するよう工夫をする。 ・美化委員会等の活動を通して、全校生徒の美化意識の高揚と実践を促進する。 ・深刻化していく温暖化を食い止めるために、「省エネ」に取り組む。
8 人権教育	平和と人権を大切にす る心の育成	・人権委員会の活動を活発にし、校内の人権意識の高揚を図る。 ・教育相談アンケートを各学期1回実施し、生徒が抱えた悩みの実態を把握するとともに、いじめの早期発見・早期解決を図る。	C	・人権作品の募集、人権啓発ビデオ上映会や人権教育集会など様々な活動を通して、生徒の人権意識の高揚を図ることができた。 ・アンケート結果をもとに、悩みを持った生徒に対応したり、教職員への共通理解を図ることはできた。いじめの早期発見・早期解決には至らない場合もあった。	・委員会活動を活発にし、更なる充実を図りたい。また、自主的に活動できる生徒を育てたい。 ・HR担任やスクールライフアドバイザーとの連携を密にし、必要ならば、HR担任と共に家庭訪問を早め実施する。 ・年度当初に教育相談アンケートを実施し、早期発見、早期解決につなげる。
	家庭や地域と連携した 活動の推進	・人権教育HR活動の公開授業の実施や「人権だより」の定期的発行と保護者への配付を通じて、地域や家庭と連携した人権教育を推進する。	C	・人権教育HR活動の公開授業の実施や「人権だより」の発行は、予定通りできた。地域関係機関の連携は図れているが、保護者との連携が今ひとつできなかった。	・「人権だより」やいじめに関するアンケートが、保護者に確実に届くように工夫する。

9 情報教育	情報活用能力の育成	・アプリケーションの活用技術を向上させ、授業や日常生活等で得られる多様な情報を、取捨選択・加工・整理・活用できる能力を養う。	B	・表計算ソフトの操作法の習得を通じて、多様な情報の取捨選択・加工・整理・活用できる能力が身に付いてきたと思う。	・授業で知識や技術を身に付けるだけでなく、資格取得にも積極的に挑戦させたい。
	情報モラル・コミュニケーション能力の育成	・パソコンやスマートフォン等を用いたインターネット、特にSNSの利用について指導し、情報モラル・コミュニケーション能力の育成を目指す。	C	・携帯スマホ教室の実施などにより、少しずつ情報モラルに対する意識は高まっていると思うが、課題も残っている。	・さらに指導を継続し、「被害者にならない」と共に「加害者にならない」ための知識を身に付けさせたい。また、保護者と生徒がスマホの使い方に関して話し合う事ができるような企画を考えたい。
10 図書指導	読書習慣の定着	・朝の読書活動を通して活字メディアへの興味・関心を高め、日常生活の中で読書に親しむ態度を育てる。	C	・「読書アンケート」で、朝の読書を評価する意見（本に興味を持つようになった、読書するようになった等）が多く見られる。 ・連絡事項の徹底、小テストの対策等、各担当がSHRを利用して行いたい内容は多岐にわたる。そのため、毎日の朝の読書の実施が難しい状況である。	・朝の読書の実施に関する教員・生徒の意識統一を図り、さらに効果が上げられるよう工夫したい。 ・朝の読書で読む本を図書館で紹介するなど、朝の読書の時間が充実したものになるよう取り組みたい。
	図書館利用の推進	・図書委員会による掲示物の工夫や読書感想文発表会の実施、図書館だよりの充実などの読書啓発活動により、より多くの生徒の図書館利用を推進する。	C	・図書委員会は掲示を工夫し読書の呼びかけをするなど、よく活動している。しかし、図書館利用に関する評価は2ポイント台にとどまっている。 ・「読書アンケート」で、図書館の利用が全くない生徒が6割である。理由として「行くのが面倒」「本は自分で買う」「時間がない」が挙げられている。	・本に興味がある生徒は多いので、授業・HR活動における図書館の活用など、生徒が図書館に足を運びきっかけ作りを工夫したい。 ・「図書館だよりの」などの広報活動をさらに充実させたい。
11 学校保健 学校安全	健康な生活習慣の定着	・生徒保健委員会の活動及び保健だよりの発行により、生徒の健康実態に即した情報提供を行う。 ・生徒一人一人が自らの健康に関心を持ち、疾病の予防及び早期発見、早期治療に繋がれるよう、関係教職員と連携を図りながら啓発を行う。	C	・実態を把握し、その時の健康課題に合わせて保健だよりを作成することができた。しかし、読んでいる生徒はまだ少ない。 ・健康診断で二次検診が必要な生徒については、HR担任や保健体育科など、関係教職員の協力を得ながら、何回か受診を呼び掛けていった。その結果、昨年度よりも受診率を上げることができた。	・生徒保健委員の活動を通して、保健だよりの内容をクラスで伝えていけるよう工夫していきたい。 ・引き続き、関係教職員との連携を図り、時期を考えながらより効果的な啓発を行っていきたい。
	学校の安全管理の徹底と学校環境衛生の充実	・定期的な安全点検（月1回）と実践的な避難訓練を実施し、安全のために自ら考えて行動できる能力や態度を育成する。	B	・今年度より、安全点検を月1回実施するようになった。また、シェイクアウト愛媛で県下一斉の訓練に参加するなどして、生徒及び教職員の安全に対する意識を高めることができた。避難訓練でも、生徒が緊張感を持って取り組んでいる様子が見られた。	・防災の観点からも安全点検を習慣付けていきたい。また、生徒及び教職員がいざという時に臨機応変な安全行動を取れるよう、避難訓練の内容を工夫していきたい。
12 学校行政	計画的な会計処理の執行と経費の削減	・購入品目を厳選し、予算を効率的に執行する。 ・光熱水費の節約を推進する。	B	・予算執行については、計画的・効率的に執行できた。 ・電気代及び水道代については、昨年度と比較し使用量が減少し節約に努めることができた。	・予算の執行については、従来どおり節約に努めながら効率的な執行を行う。 ・光熱水費、特に電気に関しては、節約を継続するとともに、不在時における電灯の消灯などを徹底する。 ・校内の施設・設備を定期的に点検し、安全・安心な環境づくりに努める。

※ 評価は5段階（A：十分な成果があった B：かなりの成果があった C：一応の成果があった D：あまり成果がなかった E：成果がなかった）とする。